

唐倉山クライミング

齋藤 宇

- 山行年月日:2022年11月5~6日
- メンバー:齋藤宇 国分勉 齋藤憲一
杉崎圭洋 阿部満孝 大竹幹衛
大竹尚子 齋藤美和子 小沼充範
窪田道男 佐藤健
- コースタイム:5日登山口 9:30~岩場
9:50~登山口 15:30
6日 登山口 9:00~岩場 9:20~登山
口 13:00

集合場所の下郷町役場は朝からイベントの準備。今日は「軽トラ市」だとのこと。乗り合わせの車をデポするのは不適と判断。田島橋を渡った大川右岸に位置する公園の駐車場へ。人も少なく邪魔にもならなそう。乗りあって旧伊南村の木伏地区から唐倉山の登山口へ。先々週は山開きイベントがあった。そのおかげで登山口までスムーズに車で入れた。春の岩登り訓練では林道に雪がびっしり残っていてアプローチに1時間かかった。おそらく雪が消えても道路は荒れているだろう。この時期になると登山口も駐車スペースが広く快適だ。

今朝は冷え込んで霜が降りている。明日まで寒気が居座るようだ。日が差し込んでくるのを待ち、程なく幹衛さんたちも到着。簡単にテント泊準備の打合せをして、岩登り組は取付へ。尚子さんと美和子さんは登山道を辿るようだ。拓かれているルートは南稜・西稜。そして開拓途中のルートが南西壁。今回の山行での

個人的な目標は3つ。

- ① 上部の岩峰登攀
- ② 南西壁ルート完成
- ③ 南東壁のルート推察

まず杉崎さんと阿部さんと西稜から。1ピッチで上部岩峰取付へ。高度感がある。立っはいるがホールドは豊富。見た目ほどの困難さはなかった。岩場の頂点からは、少し見頃が過ぎたが色づいた山々を眺めることができた。

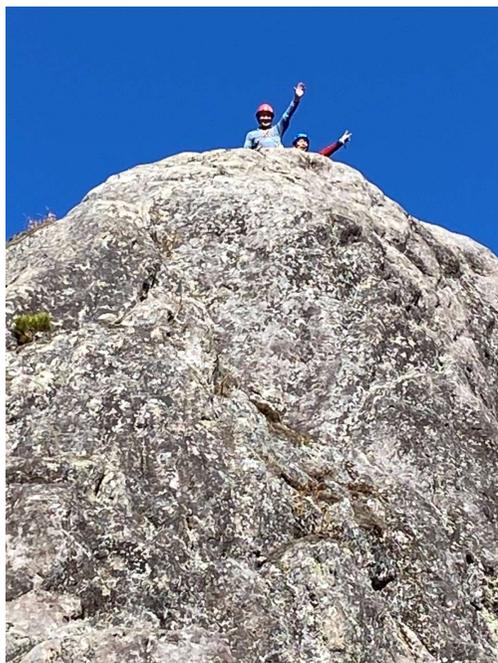


晩秋の山々を感じました

下降点から南東壁へ懸垂。トップロープで何度かトライ。南稜側は傾斜が緩み容易。東側に行くほど壁は立っていて困難。面白そうなルートを探りながら中間部にあるクラックが気になる。そのうち少し雨がぱらつく。腕もパンプしてきた

ので明日への持ち越しとする。15:00 テン場の駐車場へ。幹衛さん、尚子さん、美和子さんがビックテント設営や焚火の準備をしてくれていた。メニューは鍋と味ご飯だったが、熟達者方々のおかげで豊富な山の恩恵があり夕餉は豪華なものになった。秋の日は短く、雲のない空には月と星と人工衛星？が浮かぶ。夜には小沼さんと道男さんが合流。楽しい夜になった。ビックテントには9人で寝た。

朝、目覚めると予想どおりかなりの冷え込み。食器の水は凍っていた。皆、火を囲む。健さん合流。9時近くになって太陽の光が近くまで来た。岩場の夜露も乾くだろう。私たち昨日の西稜パーティーは南稜から登攀。見上げると別パーティーの国分さんが岩峰から覗いている。



快晴の青空が映える

さて、残った目標が一つ。南西壁ルート完成だ。今年の春に憲さんが開拓中でアドバイスもあった。西稜1ピッチ終了点から南西壁へ。上部一か所の支点でルート完成できそうだ。ただこのルートの核心部に位置しているようだ。クライマーの気持ちをイメージする。つまらない場所にならないようにとリングボルトを打ち込む。どんなルートになったろうか。トプロープで健さんにビレイをお願いしトライ。下部はガバは無いが緩傾斜のフェースが多いので、スメアリングを使っていく。上部は立ってくる。やはりホールドは少ない。小さなスタンスを頼り、ムーブに苦慮するがオンサイト。支点を回収し南東壁から降り13:30撤収。贅沢クライミング合宿は心身共にリフレッシュ。とてもいい2日間でした。